

いちごの高設棚育苗による炭疽病の発生回避

キーワード(いちご、炭疽病、育苗、高設棚、耕種的防除)

要点

いちごを高さ80cm以上の高設棚で育苗することにより、下部汚染土壌からの水(雨)滴のはね返りによる炭疽病菌の伝染を防ぎ、発生を回避できます。

内容

いちご炭疽病の防除は、薬剤散布を中心に行われていますが、完全に防ぐことは困難です。そこで、高設棚上で育苗することで、下部汚染土壌からの水(雨)滴のはね返りによる本病原菌の伝染を防ぎ、発生を回避できないか検討しました。

1. 高さ80cmの高設棚において、プランターに植付けた親株から採苗して育苗することにより、薬剤無散布でも育苗期間を通じて炭疽病の発生を認めません(図1)。
2. しかし、高さ40cmでは7月上旬から発病が認められ、汚染土壌からの伝染を回避することができません(図1)。

その他

高設棚上でいったん発生すると、平地と同様に蔓延しますので、無病な親株と床土の使用が必要ですが。

また、台風等の強風時には、水滴飛沫感染の可能性があるので注意が必要です。

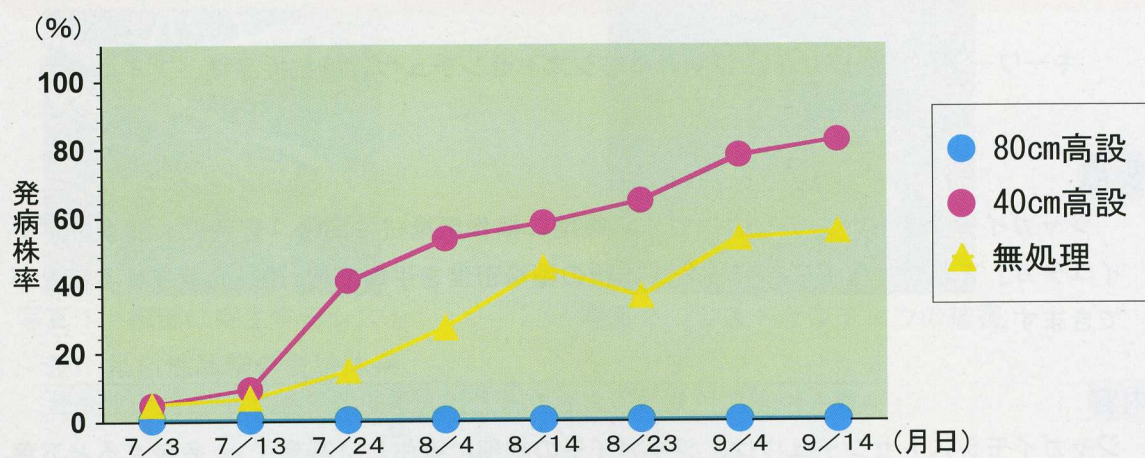


図1 いちご炭疽病の発病推移（発病株率）



問い合わせ先：総合農林試験場病害虫科（☎0957-26-3330）